

Post2020に関するOEWG2合同報告会 話題提供(2020.3.26)

国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)
Programme Coordinator (Satoyama Initiative) 柴田泰邦

– 1. 熊本ワークショップ(2019年9月開催)のレポート

※正式名称

生物多様性のポスト2020目標に向けたランドスケープアプローチに関する専門家テーマ別ワークショップ

– 2. Post2020枠組みへのUNUからのインプット

– 3. 関連会合及びランドスケープアプローチに関する非公式会合



1-1. オープニングプレナリーでの熊本WSの報告

- OEWG2のオープニングプレナリー(2月24日～25日)にてOEWG1(2019年8月開催)以降に開催されたテーマ別会合やワークショップについて報告

CBD事務局主催のワークショップを含む各地域、各機関で実施された計9つの会合について報告。

- 熊本ワークショップに関しては共同議長のアルフレッド教授が報告

熊本ワークショップの共同議長は鹿児島大学の星野一昭特任教授、及びガーナ生物多様性委員会議長のアルフレッド・オテング・イエボア教授。

- 報告に使用されたPPT及びレポート本文はCBDのWebサイトに掲載

PPT資料 <https://www.cbd.int/doc/c/efa3/6fbe/cc9fcf0ab242c852b322c1aa/landscape-approaches-en.pdf>

- レポート本文 <https://www.cbd.int/doc/c/d0da/4e8e/9670a090e7ba42be0bd46e27/unu-ias-landscape-expert-thematic-workshop-report-final-en.pdf>



1-2. 熊本WS①開催経過

◆経緯

- ・CBD-COP14(2018.11)決定において、関係機関によるポスト2020に向けた様々な支援を推奨(テーマ別会合含む)。
- ・IPSI(SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ)がこれまで収集してきたケーススタディの分析・調査結果や、NBSAPなどの実施のための検討等の知見・蓄積を活かし「ランドスケープ・アプローチ」をテーマにした専門家会合を国連大学がホスト(※海岸域等シースケープも含め議論)。
- ・第8回IPSI定例総会との同時開催。環境省、熊本県及びCBD事務局が共催。

◆概要

- ・2019年9月3日～6日、ホテルメルパルク熊本(熊本市内)を会場に開催。
- ・9月3日、オープニングプレナリーでは城内環境副大臣等の挨拶後、共同議長を選出。
;星野一昭特任教授(鹿児島大学)及びアルフレッド・オテング・イエボア教授(ガーナ生物多様性委員会議長)
- ・IPSIメンバー団体のほか、招聘専門家等を含む、計36の国・地域から約140名が参加。
IPSIメンバー以外に、中国、オランダ、EU、クロアチア、ジョージア、キルギス共和国、コロンビア、ブラジル、ドミニカ共和国、ベナン、の各国から政府機関関係者が出席。
- ・9月4日、一般市民向けの公開フォーラム(国内外の関係者がランドスケープアプローチの現場における実践等について報告・議論。9月6日、会議参加者は阿蘇地域等の現地を視察。



1-3. 熊本WS②レポートの主なポイント

- Area-based conservation ランドスケープアプローチが保護地域等のエリアベースの保全に限らず「その他の効果的な地域ベースの保全対策」(OECM)にも有効であり、保全の進捗評価に活用可能。
- Mainstreaming biodiversity into other sectors, sustainable agriculture, and sustainable economic systems 生物多様性の豊かな空間において、社会的、文化的、歴史的、倫理的、等の複数の価値を考慮したランドスケープ・アプローチは革新的で長期的なシステムを促進。
- Scientific assessment, monitoring, evaluation, and reporting
- Land degradation and restoration, and disaster risk reduction
- Coastal Biodiversity Conservation
- A gender-responsive framework
- Nature-culture linkages
- Global, national, and sub-national policy



ランドスケープアプローチは生物多様性保全とSDGs、気候変動への適応など他の課題との橋渡しを支援。

ポスト2020枠組みにて他の条約や政策プロセスとの相乗効果を模索することが有効。

- Resource mobilization, capacity-building, and CEPA



2. Post2020に対するインプット、ゼロドラフトへの対応

UNUではこれまでCBDのnotification等に対してIPSIの活動の成果や新たな枠組みへの貢献の可能性等についてとりまとめ提出。直近では2020年2月、指標indicator等に関するCBD Notification 2019-108に対応。

<https://www.cbd.int/api/v2013/documents/99624295-E2C4-068B-DEC6-5E4B078A1D6A/attachments/UNU-IAS.pdf>

主に以下のようなテーマに応じた貢献の可能性に言及してきており、OEWG2のプレナリー及び各コンタクト・グループにおいても適宜発言。

- ・**保護地域, OECMs等** SATOYAMAイニシアティブが対象としてきた地域は人間の諸活動の行われている場所でありランドスケープアプローチの概念を踏まえた取組みの促進が有効。(→Target 1及び2)
- ・**主流化Mainstreaming** IPSIの活動は地域の農林業や観光などの産業に関わり、地域の伝統文化を尊重しながら多くの主体の参画を巻き込んだ統合的な取組み。
- ・**実施Implementation** post2020枠組みの議論において、国際目標を現場の取組みに反映させる「実施」の枠組みの重視が指摘されている。IPSIが進めている生物多様性国家戦略(NBSAP)に関する調査プロジェクトの成果が活用可能。
(→Target 12~20)
- ・**自然と文化Nature and Culture** “人と自然との共生”という視点から、ゼロドラフトにおける双方の関係が一方通行であり(人の側が自然から得ることに偏っている)、文化的側面に関する視点も欠落。(→目標Goals)

3-1. ポスト2020枠組みに関連する各種会合

OEWGやSBSTTA以外にもCBD事務局や関連団体主催によりテーマ別会合、イベント等が開催されている。

※2019年11月以降の主要な会合。会合名称は一部省略、★印はUNUから参加。

- Thematic Workshop on Ecosystem Restoration(リオ,2019.11)★
- Thematic Workshop on Marine and Coast(モントリオール,2019.11)★
- Thematic Dialogue for Indigenous Peoples and Local Communities(モントリオール,2019.11)
- Expert Workshop on the Communications Strategy(モントリオール,2019.11)
- Thematic Workshop on Area-Based Conservation(モントリオール,2019.12)★
- Thematic Workshop on Resource Mobilization(ベルリン,2020.1)
- Thematic Consultation on Transparent Implementation, Monitoring, Reporting and Review(ローマ, 2020.2.20-22)★
- Thematic Consultation on Capacity-building and Technical and Scientific Cooperation ding(ローマ, 2020.3.1-2)★

3-2. ランドスケープアプローチに関する非公式会合

生物多様性のポスト2020枠組みに向けたランドスケープ・シースケープ・アプローチに関する非公式会合

実施日: 2020年2月23日 (OEWG2初日の前日)

会 場: FAO (国連食糧農業機関) 本部会議室

主催者: 国連大学 (UNU-IAS)、環境省 (日本)、

オランダ農業・自然・食品安全省、オランダ環境評価庁

・ランドスケープ・アプローチに関する国連大学とオランダからの発表後、生物多様性のポスト2020枠組みに「どのように貢献が可能であるか議論。OEWG2の出席者約35名が参加。

